

1 研究主題

「できた！」「分かった！」と感ずることができずる児童の育成
～目指したい子どもの姿に向けた追究を通して～

2 研究のねらいとこれまでの取り組み

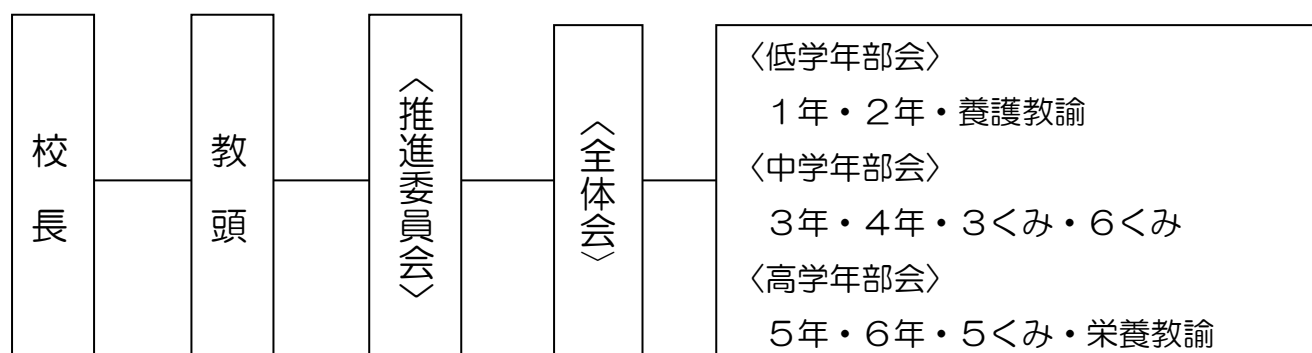
これまで、名古屋市教育委員会が重視している『なかまなビジョン』を基に、様々な教科においてどの場面でICT機器を活用し、子どもたちの「できた！」「分かった！」を引き出せるように考えながら、2年間研究を進めてきた。

各学級のまとめから、ICT機器を導入場面や共有場面で活用したことで、児童の学習に向けての意欲の喚起や新たな視点、理解につなげるきっかけとなり、子どもたちの「できた！」「わかった！」を各場面において引き出し、一定の成果を得ることができた。

そこで今年度は、「ナゴヤ学びのコンパス」が位置づけているその考えをグランドデザインにも反映し、副主題を『～目指したい子どもの姿に向けた追究を通して～』として、ゆるやかな協働性の中で自律して学び続ける子どもの姿を目指していく。

3 研究の方法

- (1) 今年度から、新しい研究副主題で取り組みは始める。3年計画として、努力点研究を実践していくために、努力点指導部会（低・中・高学年部会）を構成する。



- (2) 部員は、学習の在り方を探るために、各学年部会では月に1回程度、実践における学習指導方法について部会を開き、研究の推進や実践についての報告及び話し合いを行う。前期または後期で一人1実践を部会で見合い、事前・事後に検討や考察を行う。

- ① 自分に合ったペースや方法で学ぶ
- ② 多様な人と学び合う
- ③ 夢中で探究する

- (4) 1月に低・中・高学年部会で、それぞれの実践から課題や成果、それぞれの実践から課題や成果、大切にしたいことを実践報告書にまとめる。(資料2)

○学年部会 実践報告書

5 年間計画

月	研 究 の 主 な 内 容
4	○ 努力点研究主題の検討及び決定、推進のための組織づくり ○ 主題・基本的な考えの共通理解 ○ 児童の実態把握 ○ 実践内容の検討・具体化（ねらい、手立て、内容、実践時期の決定）など
5～7	○ 前期の授業実践（事前検討会・事後検討会を含む）
8	○ 前期の実践の結果と考察 課題の検討 ○ 後期の実践計画の検討
9	○ 中間報告会
10～1	○ 後期の授業実践（事前検討会・事後検討会を含む）
1	○ 後期の実践の結果と考察 課題の検討
2	○ 最終報告会
3	○ 研究のまとめと発表 ○ 1年間の反省と次年度に向けての方向性の検討